

令和3年(2021)の50年前・100年前・150年前・200年前・250年前・
300年前・350年前・400年前の長崎 2021年1月7日 宮川雅一

1、50年前＝昭和46年(1971) 県知事：久保勘一、市長：諸谷義武 水不足時代

○4月1日 当時の外海町にあった神浦ダムから取水開始

当時長崎市は水不足、域外の神浦ダムから、多額の迷惑料・補償金を払い取水。

○5月1日 救急車のサイレン、“ピーポーサイレン”に変わる。

これ以後、消防自動車やパトカーと区別ができるようになった。

○5月24日 浦上天主堂の鐘楼ドームの保存工事完成

原爆で埋もれていたのを長崎市・中島神父・信者が掘り出し、現地に保存した。

○8月24日 長崎市立長崎病院に新結核病棟完工、落成式

この当時はペニシリンなどの薬がなく、結核が不治の病として恐れられていた。

○10月11日 長崎市長が、し尿争議について非常事態を宣言

長崎衛生公社労組が市直営化など抜本改革を要求、ストを繰り返し、大混乱。

2、100年前＝大正10年(1921) 県知事：渡辺勝三郎、市長：高崎行一 造船時代

○2月5日 交通事故増加に対処し、初めて交通巡査を配備

前年中に電車事故が死亡6人・負傷49人、自動車事故が死亡1人・負傷20人。

○3月5日 築町に公設卸市場を新設、落成式挙行

指定商人47人を収容し、野菜・果実の卸売販売を始める。

○4月6日 満鉄が長崎・大連間に海底電信線1条を敷設

同月8日通信を開始、管理者は逓信省。

○9月1日 三菱長崎造船所製鋼部を新設

経済不況により長崎製鋼所を廃止し、その業務が三菱長崎造船所に移管された。

○10月15日 三菱長崎造船所の職工数、創業以来最高の1万8,515人を記録

戦後恐慌をしり目に、同所は戦艦土佐などの艦艇建造などで繁忙を続けた。

3、150年前＝明治4年(1871) 県権知事(県権令)：宮川房之 近代化先行時代

○3月 乙名を廃し、町年寄17人を官選して町務を処理させる。

3月15日 蘭通事、森山多吉郎没

○4月9日 長崎製鉄所、工部省所轄となり、長崎造船所と改名

この頃、受注量も増え、船舶諸機械の製作修理、陸用機械器具の製作も熟練

○6月18日 長崎・上海間の海底電信線敷設工事完成(同月26日通信開始)

10月5日には、長崎・ウラジオストック間同工事完成(11月21日通信開始)

○11月14日 新たに長崎県を置き、権知事宮川房之、長崎県権令に任ぜられる。

長崎・島原・平戸・大村・福江の5県を廃し、長崎県に統合した。

○12月15日 夫婦川町の臨濟宗寺院春徳寺14代住職・日高鉄翁没(81歳)

鉄翁は、長崎銀屋町に生まれ、長崎南画三筆の一人で、山水画特に蘭画に優れた。

- 4、**200 年前＝文政 4 年(1821)** 奉行：筒井和泉守・間宮筑前守・土方出雲守 貿易時代
代官：高木作右衛門忠任
○5 月 29 日 町年寄高島茂紀、立山御役所石火矢台を受け持つ。
高島茂紀は高島秋帆の父親で、秋帆はこの父に砲術を教わり、継承・発展させた。
○7 月 蘭船、ペルシャ産ラクダ 2 頭を長崎にもたらす。
幕府献上品とはならず、閏 8 月 9 月江戸西両国広小路で見世物となる。
○8 月 16 日 道富丈吉(14 歳)、新規に長崎地役人の唐物目利役に任じられる。
丈吉は、蘭商館長デューフと遊女瓜生野の間の混血児で、混血児初の地役人
○9 月 小通事末席河間八平次が町年寄高島父子らによって密商の罪で免職となる。
この恨みが、後年の秋帆失脚の誣告事件につながったという見方がある。
- 5、**250 年前＝明和 8 年(1771)** 奉行：新見加賀守・夏目和泉守、代官：高木作右衛門忠興
○6 月 蘭船、ジャカルタから漂流した筑前人 1 人を送ってくる。 貿易時代
7 年前仲間 19 人と遭難、蘭人の世話でからくも 1 人帰国、関係蘭人に謝礼品贈与
○7 月 16 日 薩摩藩主島津栄翁、江戸参勤の帰途、従者 1,000 余人とともに来崎
8 月 9 日まで約 1 ヶ月滞在し、船路で鹿児島へ帰る。
○この年 蘭通詞の本木栄之進、「阿蘭陀本草」を著す。
- 6、**300 年前＝享保 6 年(1721)** 奉行：石河土佐守・日下部丹波守 水害時代
○6 月 中国の医者陳振先渡来
幕命により、長崎近郊山野から薬草 162 種を採取し、処方録をまとめる。
○閏 7 月 28 日 享保の大水害(連日降雨の後、大雨地震で烽火山から市中に泥水噴出)
水死 46 人、石橋崩流 8・損壊 7、板橋崩流 6・損壊 1、石垣崩壊 372 間など
○8 月 14 日 前記 7・28 大水害死者供養のため一ノ瀬街道に青銅塔を建立
当時長崎滞在中の下野国出身の木食僧観心発起、鑄工は鍛冶屋町の安山屋兵衛国久
- 7、**350 年前＝寛文 11 年(1671)** 奉行：松平甚三郎・河野権右衛門・牛込忠左衛門
代官：末次平蔵(4 代)茂朝 牛込時代
○5 月 20 日 崇福寺中興開山唐僧の即非如一、同寺方丈で示寂(56 歳)
翌 21 日正午、当時珍しい火葬に付す。その場が、「即老和尚じゃ維處」(市史跡)
○9 月 牛込奉行、着任と同時に、奉行所の分離建設を幕府に申請(12 月許可)
東西奉行所が同敷地にあれば、火災時に同時に焼失する恐れがあるとの理由
○この年 牛込奉行、唐蘭通詞(事)に命じて、秘かに貿易品の出所・仕入価格を調査
この調査報告がその後の市法商法実施後の価格決定の重要資料となる。
- 8、**400 年前＝元和 7 年(1621)** 奉行：長谷川権六、代官：末次平蔵政直 寺院建立時代
○8 月 大音寺開山伝譽の弟子信譽、下筑後町に浄土宗寺院の法泉寺を創建
同寺は現在三原に移転、また、前年には、寺町の興福寺、筑後町の本蓮寺、創建
○12 月 12 日 大村家重臣で長崎領主の長崎甚左衛門純景が没
翌年同夫人で大村純忠の娘・とらも没。それらの墓地は西彼杵郡時津町山蔭にある。